

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

特別支援教育専攻  
／八幡 ゆかり

## ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

## 1. 目標・計画

目標 特別支援教育の課題になっている次のテーマを設定する。「地域の特性を生かした特別支援教育の教育システムに関する研究」

計画 次の手順で行う。

- 1) 事前準備として、次の研究協力者を確保する。①徳島県教育委員会ならびに徳島市教育委員会特別支援教育担当者、②徳島県立総合教育センター特別支援教育担当者、③附属特別支援学校ならびに県立支援学校
- 2) 実施内容は、次のとおりである。①県教育委員会と総合教育センターと共同で、地域の特性を活かした教育システムの研究を行う。②徳島市の早期支援に関する特別支援学校のセンター的機能について研究を行う。③徳島県における個別的教育支援計画を位置づけた教育システムの検証と提案を行う。

## 2. 点検・評価

年度目標

目標 特別支援教育の課題になっている次のテーマを設定する。「地域の特性を生かした特別支援教育の教育システムに関する研究」

中間報告で述べたように、今年度で鳴門教育大学を辞職し、来年度以降は大学勤務の予定がなかったため、科研費の申請は行わなかった。

## I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

## 1. 目標・計画

目標 現職教員と長期履修学生等の確保に努める。

計画

- 1) 研修会などの講師として依頼される際に、参加者の現職教員に本学への進学を勧める。
- 2) 近隣の福祉系大学に出向き、長期履修学生制度や特別支援教育における資格取得について説明し、本学への進学を勧める。
- 3) 学会などの場で、親交のある他大学の教員に本学への進学依頼を行う。

## 2. 点検・評価

年度目標

目標 現職教員と長期履修学生等の確保に努める。

- 1) 県から依頼された現職教員対象の研修会において本学への進学を勧めて、定員確保に努めた。
- 2) 福祉系の大学に勤務している親しい教員に本学への進学を学生に勧めていただくように電話やメールで依頼した。また、福祉系の大学の現状を調べて教員資格がとれる大学の増加を確認した。
- 3) 学会に赴いた際に、親交のある関西圏の大学教員に当該地域の状況を教えてもらうと共に、本学への進学依頼を行った。
- 4) 特別支援教育専攻長として、学生定員確保の計画を新たに作成して(専攻案内を年一回から年二回に追加)、長期履修学生などの確保に努めた。
- 5) 専攻長として、定員確保に向けた計画的実施を視野におき、特定の教員に偏らないように各教員の役割分担を明確にすると共にその結果について教員間で共有できるようにフィードバックする仕組みをつくった。

## II. 分野別

### II-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

目標 学生が授業に主体的に参加したり、学生生活を円滑に送れるよう、指導助言を適宜行う。

計画

1. 学生が主体的に授業に参加できるよう、話し合いの場を設定する。その際、学生の授業理解度を確認したり、補足説明を行い、授業内容が身につくように留意する。
2. 修士論文の作成にあたり、現職教員が実践課題解決につなげられるように指導助言を行う。
3. 学部ならびに修士課程の学生が充実した学生生活を送れるように、学部担任として、またゼミの指導教員として学生の生活上の悩み等に適切なアドバイスを行う。

#### 2. 点検・評価

年度目標

目標 学生が授業に主体的に参加したり、学生生活を円滑に送れるように、指導助言を適宜行う。

1. 学部の授業では、授業開始前に本時の学習内容を板書したり、授業内で復習を行った後に本時に入るといった工夫を行い、長期履修学生等の授業理解度を深めるように努めた。
2. 附属特別支援学校現職教員の修士論文について、来年度の同校の教育研究プロジェクトにつなげられる論文になるように指導助言を行った。
3. 学部3年の担任として附属小学校実習へのアドバイスや教員採用試験に向けた研修や集団面接並びに個人面接において具体的な指導助言を行った。また、ゼミの指導教員として論文指導だけでなく学生生活上の悩みについてアドバイスを行った。
4. 専攻長として学部学生並びに大学院生の学習生活や学生生活全般について助言指導を適宜、行った。
5. 専攻長として、学部学生並びに大学院生が使用する学習環境に常に留意して必要な施設設備を購入するなど環境整備に努めた。

### II-2. 研究

#### 1. 目標・計画

目標 特別支援教育の歴史研究と実践研究を行う。

計画

1. 重度・重複障害児の教育と福祉の処遇史研究を行う。
2. 特別な支援を要する幼児・児童の円滑な就学移行支援について実践研究を行う。

#### 2. 点検・評価

年度目標

目標 特別支援教育の歴史研究と実践研究を行う。

1. 本学の研究紀要に自立活動をテーマにした論文を投稿した。
2. 特別支援教育実習に関する評価をテーマにした論文が「日本教育大学協会研究年報」(日本教育大学協会)に採択された。
3. 本学修士課程の研究生が昨年、研究テーマにしていた重度重複障害児を対象にした研究成果を「SNE学会」に連名で発表した。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

目標 大学の一員として、大学運営に積極的に携わる。

計画

1. 基礎・臨床系教育部に所属する教員として、部の運営に積極的に参加する。
2. 特別支援教育専攻長として、専攻の運営に積極的に携わる。

### 2. 点検・評価

年度目標

目標 大学の一員として、大学運営に積極的に携わる。

1. 基礎・臨床系教育部に所属する教員として、部の運営に積極的に参加した。
2. 専攻長として、専攻会議の進行役を担い、専攻内の様々な問題に対応したり、大学執行部からの依頼を受けて、意見をとりまとめた。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

目標 附属特別支援学校の研究推進に寄与すると共に、県教育委員会ならびに特別支援学校や通常学校と連携して特別支援教育の課題に取り組む。

計画

1. 附属特別支援学校の研究に関して助言を行うと共に、一緒に取り組む。
2. 県教育委員会の依頼を受けて、各種委員会委員に専門家として参加する。
3. 教育支援・アドバイザー講師として県下の学校に出向き、課題解決の助言指導を行う。

### 2. 点検・評価

年度目標

目標 附属特別支援学校の研究推進に寄与すると共に、県教育委員会ならびに特別支援学校や通常学校と連携して特別支援教育の課題に取り組む。

1. 附属特別支援学校の教育研究プロジェクトについて全体計画や実施結果について助言を行った。
2. 県教育委員会の依頼を受けて教科書選定委員会や校長を対象にしたリーダーシップ研修会、2・3年次教員の研修講師、特別支援学校の認定講師を務めた。
3. 教育支援・アドバイザー講師として小学校二校、特別支援学校一校に赴き、実践課題について指導助言を行った。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

特にありません。